

2014年度 センター試験 世界史B(本試験) ワンポイント解説

第1問	問2	第1次中東戦争(1948~49)でイスラエルが領土を広げたのは事実であるが、シナイ半島・ゴラン高原・ヨルダン川西岸・ガザ地区の占領は第3次中東戦争(1967)の内容である。全4回に渡る中東戦争の内容は確実に理解しておきたい事項である。
	問4	インドネシアの戦後史は、九・三〇事件(1965)を契機にスカルノからスハルトへの政権移行が重要である。ホー＝チ＝ミンを中心としたインドシナ共産党の成立は1930年と第二次世界大戦前であることを押さえてあれば、②を選ぶことができる。
	問5	ジャワ島に伝わる影絵芝居で『マハーバーラタ』『ラーマヤナ』などを題材とするワヤン(ワヤン＝クリット、ワヤン＝クリ)は東南アジアの文化史としては基本事項である。
	問6	琉球王国の歴史は、センターのみならずアジアの貿易ネットワーク史として頻出事項であり、しっかりと学習しておきたい。GATT(関税と貿易に関する一般協定)は自由で平等な貿易を推進する目的で設立され、1995年にはWTO(世界貿易機関)へと発展したことも戦後史の基本事項として押さえておきたい。
	問7	EFTA(ヨーロッパ自由貿易連合)は1960年にEEC(ヨーロッパ経済共同体)に対抗するためイギリスを中心に設立された工業製品の共同市場である。
	問8	第二次大戦後のベルリン分割管理において、東ベルリンをソ連が占領したことは基本事項であるので、問題を解くことは容易である。ちなみに西ベルリンは地図上のaがフランス、bがイギリス、cはアメリカが占領した。
第2問	問2	豪族は主に秦漢時代から中国の歴史に登場し、地方の一大勢力として初期の各中国王朝に大きな影響を与えた。佃戸は宋代から登場する小作農を指す。華僑は明代の海禁政策以降から増加した海外への中国人移民であり、特に東南アジアへの移民(南洋華僑)が多かった。
	問8	アメリカ労働総同盟の設立が1886年という年号は頻出事項とはいえないものの、南北戦争(1861~65)後のアメリカ工業発展に伴う労働者の増加と結び付けて覚えておくことは重要である。なおこの19世紀後半はヨーロッパでも社会主義運動が盛り上がりを見せた時期であるが、アメリカ労働総同盟は社会主義を目指す団体ではないという知識も併せて覚えておきたい。
	問9	世界における女性参政権の歴史は入試頻出事項の一つである。その歴史は1893年のニュージーランドから始まるが、重要事項としては、第一次世界大戦中の戦争協力を背景とする戦後のイギリス(第4回・第5回選挙法改正)・ドイツ(ヴァイマル憲法)・アメリカ(ウィルソン政権)などを押さえておきたい。
第3問	問6	第二次世界大戦後の、連合国による戦争犯罪者に対する裁判は国際軍事裁判と呼ばれ、ナチス＝ドイツに対して行われたニュルンベルク裁判と、日本に対して行われた東京裁判(極東国際軍事裁判)の2つを覚えておきたい。
	問7	第二次世界大戦後の中国史の流れが理解できているかを問われる問題。年号を覚えていなくても、フルシチョフの平和共存政策から始まる社会主義の動揺から、中ソ論争が開始・激化(中ソ国境紛争)したのが1950~60年代、ベトナム戦争(1965~75)の泥沼化によりアメリカが孤立し始め、中国に接近(ニクソン訪中)し、アメリカの同盟国である日本が追随した(日中平和友好条約)のが1970年代という流れを分かっていると正答できる。
	問8	韓国の歴代大統領は、初代の李承晩(在任1948~60)と、日韓基本条約(1965)を締結した朴正熙(在位1963~79)、南北両朝鮮首脳会談(2000)を実現させた金大中(在位1998~2003)の3人は押さえておきたい。

第4問	問1	ムハンマドがメッカでの迫害を避け、北のメディナ（ヤスリブ）に移動したことをイスラーム世界ではヒジュラ（聖遷・622）と呼び、この年はイスラーム暦（ヒジュラ暦）で元年とされる。その後ムハンマドはこの地でウンマ（イスラーム共同体）を建設した。地図上ではメッカの場所が記されていないので選択は容易である。
	問6	細かい知識を問われる問題。太平洋諸地域においてドイツがマーシャル諸島・カロリン諸島・パラオ諸島・マリアナ諸島などを領有していたという知識はかなり高度な知識といえよう。消去法でいくと、プエルトリコは米西戦争（1898）の結果スペインからアメリカの領土となり、スマトラはアチェ戦争（1873～1912）によりオランダ領東インドに組み込まれたというのは知っておくべき重要な事柄である。残るタスマニアであるが、オーストラリア・ニュージーランドとともにオランダの探検家タスマンに発見されたという知識があれば、正解は①となるが、いずれにせよかなりの難問である。